各位

ビキニ被ばく船員の救済とビキニ事件の真相解明を求める院内集会

― ご支援とご協力のお願い ―

2026 年 10 月吉日

呼びかけ

日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）

ピースボート共同代表　川崎　哲

原水爆禁止日本国民会議(原水禁)　事務局長　谷　雅志

原水爆禁止日本協議会(原水協)　事務局長　安井正和

太平洋核被災支援センター　代表　濱田 郁夫

1954 年、米国はマーシャル諸島で「キャッスル作戦」として 6 回の水爆実験を行いました。周辺海域で操業していた延べ 1000 隻のマグロ漁船と、その船員が被ばくしました。これは、第五福竜丸の被ばくにとどまらない、わが国の戦後史における大きな核被害です。

しかし日本政府は、1954 年末に捕獲マグロの放射能検査を打ち切り、1955 年には米国から 200 万ドルの見舞金を受け取ることで「完全な解決」とし、被ばくした漁船員の健康調査や全国的な実態調査を行ってきませんでした。70 年以上にわたって救済を置き去りにしてきたと言わざるを得ません。

「マグロは検査したが、俺たちは何も検査されなかった」――元船員からは、こうした切実な証言が寄せられています。当時のマグロや漁船の検査記録など、関係資料も残されています。

2014 年以降、元船員や遺族による聞き取りと資料の開示が進み、労災申請や国家賠償訴訟にもつながりました。

ビキニ事件は、まだ終わっていません。

被ばく船員の多くは 90 代となり、時間的な猶予はありません。第五福竜丸の被害だけでなく、延べ 1000 隻を超える漁船と、そこに乗っていた船員の被ばくを歴史の闇に埋もれさせてはなりません。

いま必要なのは、政府の責任による全国的な実態調査と、被ばく船員・遺族の救済です。

この院内集会を、超党派の国会議員の皆さまとともに、ビキニ事件の真相解明と被ばく船員の救済を前に進める機会にしたいと考えています。

皆さまへのお願い

1. 院内集会へのご参加をお願いします

別紙にてご連絡をいただけると幸いです。

日時：2026 年 11 月 24 日（火）14 時～16 時　会場：衆議院第二議員会館 第 8 会議室

主な内容

〇講演　ビキニ事件について

講師　市田真理（いちだ・まり）さん　第五福竜丸平和協会事務局長、中央大学・立教大学兼任講師、明治学院大学国際平和研究所研究員。

〇高知より被害者、ご遺族、支援者からの発言

〇質疑応答

2. 全国実態調査と救済の実現にお力添えください

政府の責任において、関係自治体・関係機関と連携し、被ばく船員の全国的な実態調査と、被災者・遺族を救済する仕組みについて協議が進むよう、お力添えをお願いいたします。そして、議員立法も含め、被ばく船員を救済する道を一日も早く拓いていただくことを願っています。

ご多用のところ恐縮ですが、院内集会へのご参加と、ビキニ被ばく船員の救済に向けたご支援・ご協力を心よりお願い申し上げます。

返信先

担当　宮澤洋子

TEL 03-5842-6451　FAX　03-5842-6460

Email y-miyazawa@min-iren.gr.jp

11月24日　院内集会について

お名前　（　　）

連絡先　（電話　　)(Mail　　）

〇賛同します

・参加します　（　会場　　WEB　）　　・参加できません　　・その他

いずれかに〇をお願いします。

〇賛同できません

集会へのメッセージなどいただけると幸いです

問合せ先

太平洋核被災支援センター事務局　TEL 088-875-3917　FAX 088-875-3917

担当　橋元陽一　090-8694-1736

全日本民主医療機関連合会（全日本民医連）TEL 03-5842-6451　FAX　03-5842-6460

Email y-miyazawa@min-iren.gr.jp　　担当　宮澤洋子　岸本啓介